

セメント工場は既にその竣工に近づき、エルサルムに於ける新式の製粉會社は一日五十噸の能力を有し、テル・アウイザの新煉瓦工場は一ヶ年の生産高一千五百萬個と稱せられ、一九二四年から作業を開始したアスリットのパレスチン製鹽會社は海水の蒸溜によつて上質の鹽を製造してゐる、しかし鹽はパレスチン政府の專賣であるからその生産は全部政府の手で買収されてゐる。かくてヨルダンの水力電氣が完成し、運河が開通してヨルダン豁谷の乾燥した土壤が充分に灌溉された曉に於けるパレスダインの發達は誠に驚くべきものがあらう。

新刊紹介

○提實地地質學

(増訂版) 理學士 大榮洋之助氏著

東京榮華房發行 定價二圓八十錢

本書は名の示す如く地質調査の現場作業を主眼とし、地質學の教科書に教ふる原則を現場に應用して或る地區の地質構造及び包蔵する鐵産物を決定するに當り必要な實際的注意を具象的に説明したものである。此の種の書物は英來佛獨に種々ある中の最も古いのに英國アークバルド・ゲーキーの野外地質編があつて、地質學の門に入らんとするものに好指針であり、獨逸のアルテルの地質學入門篇も之と趣を同くした良書である。然れども此等の書物の缺點は一通の地質學を書物で理解した上で實

地の調査に従事するものに必要なる注意を興ふるには餘りに平易通俗に失してゐる感がある。本編は近頃米國で出版された鐵床の地質調査に要する要項を列擧した諸書を參考されて應用方面の調査に従事せんとするものに教ふる目的で書かれてゐる。故神保先生が野外の地質調査に關する方法を邦文にて記したるもの最初の書なり、三十四頁に亙る所の調査項目は觀察の手落ちなきためものにして之を擧げたるは本書の親切なりと本書の第一版を評されたのは過評で、僅々二百頁の一冊子に實地の注意を殆んど遺漏なく網羅し、行文簡明なれども極めて平易であるから必しも地質學の素習の深くないものにも容易に理解される。苟くも野外作業に出んとするものは何時も先づ本書を一讀して重要な事項の觀察に要する準備の器具器械材料を整理して出發すべく、野外作業を了り引上げる時に更に一讀すれば恐らくは後に觀察の缺陷採集材料の不明等取り返しにつかぬ不注意を悔ゆることなからう。是は著者の多年地質調査所及び鑛業會社の技師として實地作業で獲た結晶たる本書の特長として推奨に歸せぬ。(小川)

○大日本帝國郡市別人口密度圖

石橋五郎監修 小野鐵二編 東京富山房 發行 定價五圓
縦五尺二寸横三尺六寸、解説及人口密度表附

日本には未だ良き人口密度圖がなかつた。本密度圖は小野學士が京都帝國大學文學部地理學教室に於て多大の苦心を以て調製された郡市別人口密度圖を百五十萬分の一の縮尺にし、郡に於ては九段級に分けたものを三種の色彩で顯はし、市に於ては四

階級に分けて其の密度を示したものである。之を壁間に掲げれば一見して日本の人口が如何に分布されてゐるかを明瞭に知ることが出来る。本圖には別に約百頁の解説及人口密度表の一冊が附いて居る。之に依るゝ本圖は伯爵柳澤保真氏の主裁されて居る柳澤統計研究所で出版費用を負担して公表されたものである。解説の初めには石橋博士の本圖の刊行と一般人口分布圖の作製に關する徹透した論文が掲載されて居る。之に依て吾人は人口分布圖には如何なる種類があるか、其等には各如何なる長所があるか、人口密度圖利用の途如何を知るゝことが出来る。第二の記事は小野學士の本人口密度圖作製の方法を細かに説かれたもので之に依つて密度圖作製の如何に困難な仕事であるか、窺はれる。表は本圖の基となつた郡市別人口密度表（大正九年十月一日現在）を計算はされたが未だ密度圖として公表しない近畿地方町村別人口密度表等がある。本解説には人口密度圖から讀まらるべき人文現象の分布などは説かれて居ないで前述の如く人口密度圖作製の議論と其の作業が解かれてゐる許りである。讀つて本圖の出來方を一瞥するに印刷明瞭、色彩鮮明であつて掛圖として立派なものである。次に人口密度の表はし方を見るに郡部では九段級に分けてあるが一方軒百五十人以下の三階——それは草色で示された人口稀薄の部分——の分布が他の六階級に比して甚だしく廣い爲めに此等稀薄部に於ける人口分布の状態を詳しく見ることが出来ない。勿論茲に別けた九階は密度大なる方で大きくわけ密度小なる方で細かく別けられてゐるもの、出來上つた圖としてほもつと稀薄部を細かくした方が美

しかつたと思へる。然し稀薄部を其れ程までに人文地理學上分ける必要がないと云へば其れまでもあるし學理から云つても或は不都合なものかも知れない。こゝでは只素人眼に見た所を云つて見たに過ぎない。市部の方は密度圖に加味するに人口分布圖としての價値をつけるが爲めに市の實際の外形に近い輪廓を書くと同時に其處に四階の密度が色で示されてある。都市をかく表はしたことは面白いのであるが、一方では宇治山田市の如く一方軒八百九十六人餘であつて千人以下の然かも面積の廣い市が白く殘されて、周圍の郡部が百人乃至百五十人である稀薄を示した濃綠色の間に淋しく殘されてゐるなどの欠點が出來て了つた。

一般に云ふと百五十萬分の一の縮尺は郡市別人口密度圖としては大き過ぎた。恐く三百萬分の一にしたらほもつと一見して感じのよい人口密度圖が出來たこと、想はれる。細かい彩色の地質圖に馴れた私共の眼にはこの圖が丁度概測の地質圖から感ぜられる大まかさを感ぜさせる。

郡別にしては眞の人口の分布が明かにされないことは石橋博士の解説によつても判ることである。今和歌山縣有田郡を例に取つて見るゝ平均は一方軒五十一人に過ぎないが町村別にすると最密の廣村千六百七十四人三から五村の三二人に五つて居る。かういふ風であるから町村別の密度圖を最初に作つて之を基礎として小縮尺の密度圖を造るのでなければ人口密度を通觀するに適しないと思ふ。著者小野學士は町村別近畿地方人口密度圖の稿も完成されたいふことであるから之も公刊されたい

ものである町村別人口密度圖にして初めて我等の地理的慾望を満足することが出来ること考へられる。

妄評は著者にも讀者にも多附せねばならぬ。何さか云ふものに之だけの立派な人口密度圖を作り且つ之を政府の事業としてではなく公刊されたことは我が國の爲に慶賀に堪へないことである。之に引續いて人口分布の真相が明かにされる様な分布圖や、其の圖から得られる人文地理方面の解説を試みる人文研究家の續出せんことが望ましい。(中村)

○朝鮮の人口研究

善生 永助著 大正十四年八月

菊版二九二頁 京城朝鮮印刷株式會社出版部發行 定價貳圓
眞學なる朝鮮研究の著述の多くない中に此の人口研究の一著は稀に見る立派なものである。朝鮮問題の根本は其の現時に於て千七百餘萬の大數を示し年々二十萬内外の増加を見る朝鮮人人口に在る。本書は章を分ちて緒編、李朝時代の戸口、併合以後の戸口、人口の分布、素質別人口、出生・死亡・疾病、結婚及び離婚、在外朝鮮人、結論となし、各種の統計を充分に整理して委曲を論ずると共に其の人文の發達と民族の特性とを闡明するに努めて、漸しき幾多の資料をも織り交せて居る。人文地理學から見て其の人口の分布以下の五章は多くの資料を供給して居る。「地球」第三卷第四號に載せた「朝鮮の人口と其分布」で朝鮮の人口に關して吾等ば深い省察をせねばならぬと感じた讀者は進んで本書に就いて其の研鑽の歩を進められんことを希望する實際朝鮮統治に關し日本人としての責任を感ぜられる人達ば考察の基礎を得る爲めに本書を翻讀するの要があると思はれる

本書には表は數多くあるが圖表の一つもないのは物足りなく、一見して統計を頭に滲み込ませる様な人口の分布圖や其他があつて欲しかつた。然し本文を精讀するものには明亮に朝鮮人口に關する狀況と其の研究の方針とを捕へることが出来る。(ナカムラ)

○太平洋民族誌

松岡 靜雄 著

西書院發行 定價三圓八拾錢

爪哇史の譯者として篤學の名高き松岡氏はこの度この書を公刊された。太平洋中に散在するメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの三大群島の民族について、歐米人の著書二十餘種を繙き其發見の歴史をさき、現在住民の狀態及び言語、宗教、神話風俗の類から社會制度等に互つて詳細な説明がある、讀んで行くうちに我國の神話及古代風俗にも共通した或る物、たゞへばタブー(禁忌)の制度や入墨の風習のごときを初め原始的の信仰の彼我類似の點の多いことを發見せしめ余程面白い土俗學上の貢獻であると推奨する。著者は本書の卷末に太平洋に關する歐米人の著書目錄七十頁を附録した外に固有名詞索引(ローマ字綴り)を附加してゐる、これ又本書のいかに眞面目であるかを語るものであらう。(藤田)